

会議録

- 1 附属機関の名称
犬山市総合計画審議会
- 2 開催日時
令和5年5月23日（火） 午後7時00分から午後8時30分まで
- 3 開催場所
犬山市役所 2階 205 会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 岡村 千里、奥村 哲司、丹羽 良仁、増田 修治、田村 奈々、森好 佐和子、鈴木 誠、水内 智英、間中 麻耶、目黒 優衣
 - (2) 執行機関 井出経営部長、古田企画広報課長、後藤企画広報課長補佐、倉知企画広報課統括主査、若山企画広報課主査補、吉田企画広報課主事補
- 5 議題
 - ・第5次犬山市総合計画等の進捗について
 - ・第2期いいね！いぬやま総合戦略の改訂について
- 6 傍聴人の数
0人

7 内容

（1）開会

事務局（古田）	令和5年第1回犬山市総合計画審議会を始めさせていただきたいと思います。私4月から企画広報課長になりました古田といいます。よろしくお願いします。改めまして、本日はお忙しいところご出席いただき誠にありがとうございます。それではまず初めに、鈴木会長の方からご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
---------	--

（2）あいさつ

鈴木会長	皆様どうもこんばんは。 大変ご無沙汰しております。これまで第6次の総合計画策定に関わっていること、どうもありがとうございました。皆様方と一緒に市民の声を反映させた形の計画策定に関わらせていただきまして大変光栄でした。 本日は、この第6次の前の第5次の総合計画等ですね、こういったものについての検証作業ということが一つ大きな作業となりますけれど、ぜひまた皆様方の率直なご意見を賜りますようによろしくお願い申し上げます。
------	--

事務局（古田）	ありがとうございました。 続きまして犬山市長 原欣伸より皆様にご挨拶申し上げます。
---------	---

（３）市長あいさつ

原市長	皆様改めましてこんばんは。 皆様にはこの犬山の将来像と向き合っていただきながら、こうして犬山の最上位計画である、犬山市総合計画の完成をさせていただきました。ここには皆様の犬山への思いと考えが凝縮をされている大切な、大切な計画です。 またその中で、犬山の今の課題と向き合ってもらいました。 それから犬山のいいところを改めて再確認再認識してもらいながら、犬山のこれからのあり方、未来像を、道しるべを、ここに示していただいたことは、本当にありがたいことでありますし、何度も何度も議論を重ねていただいた、まさに成果でありますので、まずは心から感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。 本当に犬山は大きな課題がたくさんあります。もうご承知のとおり、人口 7 万 5000 人だったものが 7 万 3000 人を切るまでになりました。どうして人口減少になるの、なんて聞かれますが単純に年間 800 人の方が亡くなられて、生まれてくる赤ちゃん、10 年前は 700 人以上生まれていました。でもその赤ちゃんは今や 400 人を切りました。 392 人の赤ちゃんの誕生ですから 400 人ずつ単純に年間減っているということを見つめていただければ人口減の理由がよくわかると思います。そうした赤ちゃんが少ないということはどういうことか。 やはり働き世代子育て世代が少ないことも、犬山が向き合っていかなければならないことでありますし、大切なことではあるのですが、これから高齢化率が犬山は、ぐんと上がります。 85 歳以上の高齢者の数がうんと増えてくるのも犬山でありますので、そうした課題に向き合いながらこれから考えていかなければなりません。 でも先ほど申し上げたように良いところいっぱいあるんです。潜在力、可能性たくさんあると思っています。犬山には地域資源が豊富でありますし、今日も水内副会長は京都から来てくださいましたけども、あっという間に犬山に着いたとおっしゃっていただきました。名古屋駅に近い、30 分もあれば犬山まで来ることができますし、国道 41 号線の 6 車線化も、この令和 5 年度で犬山の五郎丸までの区間すべて完了いたします。まさに犬山の良いところでありますし、もっと言うのであれば、7 万 3000 人の人口で名鉄の駅が 7 つもある。こんなまちもそうそうにあるものではありません。ということは、駅と地域をつなぐまちづくりができるとしています。 しかし駅が近いから何ができてもいいというものではないと思っています。そこには皆様に住んでいただく場所であったり、働く場所であったり、また商業が集積する場所であったり、そうしたバランスのいいゾーニングを我々犬山が考えていかなければならないと思っていますし、この総合計画に、その中身を皆様にお示しをしていただいていると思っています。 何はともあれ、大切なのはここからです。これだけ立派な夢ある計画書、未来像をお示しいただいたので、ここから犬山市民の皆様と魂を込めるために、新しいまちづくりを展開していきたいと思っています。
-----	---

	皆様方には改めて感謝を申し上げながら、我々の大きな役割は、この作っていただいた大切な総合計画を市民の皆様と夢ある犬山づくりにつなげていくことだと思っています。 犬山もただ来るまちではありません。住みたいまちに転換していかなければならないというように思っていますし、「論語」が示すように、近きものが喜んでこそ遠き者が来るのだと思っています。そうした犬山づくりにこれから我々は全力で取り組んで参りますし、この6次の犬山総合計画の継承もしっかりしていきながら、犬山づくり犬山市民の皆様とともに進んで参ります。 どうぞこれからも、さらなるご指導をいただきたいと思っています。改めて皆様には感謝申し上げ、私の挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。
事務局（古田）	それでは、市長につきましてはここで退席とさせていただきます。
原市長	ありがとうございました。

（４）議事

事務局（古田）	それではこれから会議の方進めさせていただきたいと思いますが、本日の会議はお手元にございます次第に従いまして進めさせていただきます。 終了時刻ですけれども大体1時間半程度ということで、午後8時半を目途に進めさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。 まず、本日は事前に松浦委員、ピアンキ委員、中山委員よりご欠席のご連絡をいただいております。また目黒委員からは遅れて到着というご連絡をいただいております。 現時点で委員総数14名のうち、10名の委員の方に出席をいただいておりますので、本会は成立ということでご報告させていただくとともに進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。 また本会議は犬山市附属機関の会議の公開に関する要綱第5条というものがございまして、この規定により会議録が市ホームページで公開となっております。 そのため、会議録を作成するためボイスレコーダーを使いまして会議の方を録音させていただいておりますので、その点をご了承ください。 また、会議録につきましては、後程会長から指名をいただきますけれども、委員2名の方に署名をいただいた後に会議録成立ということで、整えて参りたいと思っております。 それでは資料の確認をさせていただきたいと思います。 まず初めに、別紙ということで始めにお読みくださいというA4のホチキス止めをしたものがございます。 続きまして次第になります。 続きまして委員名簿。 資料1、第5次犬山市総合計画（改定版）指標等結果報告書ということで資料番号を右上に振ってございます。 続きまして参考資料1、第5次犬山市総合計画（改訂版）目標指標一覧。 続きまして資料2、総合戦略関連事業進捗状況一覧表。 資料3－1、地方創生関係交付金の効果検証。 資料3－2、同じく地方創生関係交付金の効果検証。 括弧書きでタイプの方が違っておりますけどこの資料3－1と資料3－2。
---------	--

	続きまして資料４、新旧対照表ということで第２期いいね！いぬやま総合戦略という資料をご用意させていただいております。 またお手元の机には第５次犬山市総合計画の改訂版。第２期いいね！いぬやま総合戦略、第６次犬山市総合計画、同じく第６次犬山市総合計画概要版をお配りさせていただきます。 大変多くの資料となっておりますけれどもお手元皆様、よろしいでしょうか。 はい、ありがとうございます。 それではこれから議事に入りたいと思います。 議事の進行については鈴木会長よろしく願いいたします。
鈴木会長	はい。それではただいまから議事の方に入って参りたいと思います。皆様よろしく願いいたします。 まず本日の議事に入っていく前に一つ皆様に確認をさせていただきたいのですが、審議会においてはこれ犬山市の附属機関の設置及び運営に関するガイドラインというものがございましてその第８条の規定です。原則公開という手続きをとっております。今日この会についても、この原則公開というガイドラインの規定を運用していきたいと思っておりますが、皆様の方でご了解いただけるかどうか、確認してから議論していきたいと思いますがよろしいでしょうか。 はい、では全員からご承諾いただいたものとして、本日の会議の方は公開という形で進めさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。 それからもう１点、先ほど話がありましたように、本日の会議録署名人の選出を会長の方がしなくてはいけないということになっておりまして、僭越ですがけれども、水内委員と鈴木温委員にお願いできたらと思いますがいかがでしょうか。 では、両委員にご承諾いただきましたので、お願いをしたいと思います。 それでは、ただいまから本日常第の４にある、議事に進んで参りたいと思います。まず、(１)、第５次犬山市総合計画等の進捗について、こちらの方から皆様方への説明、よろしく願いいたします。
事務局（倉知）	事務局の倉知です。よろしくお願いします。 それでは、資料に基づいて説明させていただきます。(１) 第５次犬山市総合計画等の進捗について、では、「計画期間が満了しました第５次総合計画改訂版の目標指標結果報告」、そして、「第２期いいね！いぬやま総合戦略と、総合戦略を受けて実施している地方創生関係交付金事業について検証結果の報告」をさせていただきます。総合戦略と地方創生関係交付金事業につきましては、委員の皆様からご意見・ご見解をいただきたいと考えております。 まずは資料１及び参考資料１について、第５次総合計画改訂版にて目標を設定していた指標等の計画期間終了時点での達成状況を記載したものをご紹介します。こちらは報告とさせていただきます。 まずは、基本構想における人口の目標とまちづくりの達成指標について、資料１の１ページと２ページを使ってご説明します。これらの指標は、国勢調査や市民意識調査の結果を基に判断するものですが、国勢調査は５年に１回実施、また、市民意識調査は総合戦略や総合計画の策定に合わせて随時実施しているもので、2022年度は実施していないことから、計画期間終了時点の値が把握できておりません。そのため、直近で把握している数値までの傾向等を加味して達成状況の判断をしておりますのでご承知おきください。 まず１．人口の目標です。実績は国勢調査の値を採用していますが、2022年の

値は把握できないため、住民基本台帳による市内人口を参考にしております。2020年12月末時点で73,398人、2022年12月末時点で72,733人と、減少傾向であることから目標達成はできていないと考えます。移動率や出生率の向上のための施策、子育て支援や少子化対策等の事業を計画期間中に展開、拡充をしてきました。今後も6次総の取組みの方向性に従って事業を継続していくことで、その効果が表れてくるものと考えております。また、シティプロモーションにつきましても、住むまちとしての魅力発信を始めているところですが、こちらも6次総で整理した取組みの方向性に従って、事業を展開していく予定です。

続いて、2. まちづくりの達成指標の(1) 住みよさ指標です。「●今後も犬山市に住み続けたいと考える市民」について、2019年、2021年はともに90%を超えており、目標達成はできていると考えています。6次総でも本指標はまちづくりの達成指標として採用しており、今後もよい水準を維持できるよう、取組みを進めていきたいと考えております。

2ページをご覧ください。(2) まちづくり指標です。「●犬山市は安全・安心を実感して心豊かに暮らせるまちだと思ふ市民」について、2019年、2021年ともに80%を超えており、この指標も目標達成できていると考えます。

一方、「●地域でのつながり・支え合いを大切にしている市民」と、「●犬山のまちに愛着を感じている市民」についてはご覧のとおり減少で推移しており、目標達成はできていないと考えます。地域でのつながり・支え合いの指標については、地域のつながりの希薄化、希薄化がもたらす諸問題について、市民や関係団体等と協働して考え解決していく必要があります。そして、犬山のまちに愛着を感じている指標についても、シティプロモーションの取組みが愛着の造成につながると考えますので、それぞれ6次総の取組みの方向性に従って取り組んでいきます。

次に、まちづくり宣言別計画の達成状況評価です。まず、はじめにお読みくださいの4ページ(2)をご覧ください。宣言別計画につきましては、計画期間終了時点での達成状況を達成率で算出し、表のとおり、100%以上を「達成」、その他は「未達成」として、達成率に応じてABCとランク付けをしております。全体での達成状況、宣言別の達成状況を資料1の3ページから記載しております。また、各宣言に紐づく個別施策に関する達成状況等の詳細については、参考資料1の一覧表にてご確認ください。

参考資料1を使って、達成状況評価の説明を少しさせていただきます。表紙を1枚はねていただいて、表の一番右側、⑧達成状況評価の達成率を算出するにあたっては、④改訂時から⑥目標値に近づいたかどうか、という視点で計算をしています。例えば、整理番号1の、「健康であると思っている市民の割合」では、改訂時が68.8%、目標値が80%なので、11.2%の上昇が必要。しかし計画終了時では74.1%と、改訂時の数値から5.3%の上昇で終わりました。11.2の上昇を100%とすると、5.3の上昇は、達成率47.3%となる。という考え方です。

未達成Cの達成率0%未満の考え方についてもご説明させていただきます。先ほど申し上げた、改訂時の値が目標値に近づいたかどうか、という視点で見ると、改訂時の数値より計画期間終了時の数値が下がってしまっているものは、達成率0%未満という評価、ということです。例えば、整理番号4の、「特定健康診査受診率」を見ていただきますと、改訂時39.3%、目標値50%としながらも、計画終了時では38.8%と改訂時を下回りました。こういったものを達成率0%未満とし

てCの評価をつけています。

それでは次に、はじめにお読みくださいの5ページをご覧ください。ここでは、結果概要を記載しております。目標値を達成している指標は188件中61件となっております。また、参考となりますが、達成割合上位・下位それぞれ3宣言を記載しております。

なお、未達成となってしまった主な理由としては、①コロナ等の外的要因、②予算の都合等の内的要因、そして、以前審議会でもご指摘がありましたとおり、③5次総改訂版の目標指標及び目標値の設定方法や進捗管理の方法に問題があったことが挙げられます。

今回これ以上の深堀りはできておりませんが、現在、5次総の計画期間が終了し、5次総の反省点や改善点なども踏まえながら策定したのが6次総になります。今後、6次総に関しては、5次総における③の問題点を改善できるように新たに設定をした、「各施策における達成指標と目標値【目指す方向性】」によって進捗管理をしていきます。また、市民アンケートや審議会でのご意見を踏まえて整理した6次総基本計画の取組みの方向性に沿って各施策を推進していくことで、より適切で効果的な事業実施ができるものと考えております。なお、資料には記載しておりませんが口頭でお伝えしますと、達成指標につきましては、基本目標の達成に必要な指標として象徴的なものを絞り込んで設定をしましたので、その達成度合いに応じて事業内容の見直しをかけていくことで、重点的な施策展開が可能になると考えております。

加えて、5次総の反省を踏まえ、6次総の指標の達成に向けては、進捗管理の内容を事業担当課と共有すること、指標達成に向けて何をどうしていくのか考えながら事業内容を調整すること、また指標の達成に資する事業に対する適切な予算配分、といったことを意識して計画を推進していくことが重要であると考えています。

次からご説明する、資料2及び資料3—1と3—2につきましては、事務局の考え方に対して委員の皆様から、思ったことやご見解がありましたら教えていただきたいと考えております。

まずは資料2、「総合戦略関連事業進捗状況一覧表について」です。こちらは、2019年度末に策定された第2期いいね！いぬやま総合戦略に記載している個別事業の進捗状況を記載したものです。昨年度に取り組んだこと、及び計画期間までに取り組むことを記載しています。なお、戦略の計画期間は2020年度から2024年度末までとなっています。

「はじめにお読みください」の6ページをご覧ください。計画期間がはじまって3年が経過しました。「準備中」のものが昨年度の5事業から3事業となり、「実施中」が50件、「完了」が15件となっています。事業は始まっていますが、次年度以降内容の拡充を予定しているものについては「実施中」とし、補助制度や事業スキームが出来上がって引き続き継続していくものについては「完了」と整理しています。計画期間終期の令和6年度までに、すべての事業が「実施中」又は「完了」となることを目指しています。なお、昨年度の報告では、準備中5件、実施中55件、完了8件となっております。

現在「準備中」となっている3事業についてご説明しますと、資料2、まずは1枚目の病児保育事業実施、こちらは令和6年度事業実施に向けて、今年度は必要となる施設整備事業に補助を行う予定です。次に2枚目、D I Y型空き家事業

	の活用・啓発。こちらでも事業実施に向け、空き家所有者と協議を継続していく予定です。最後に、2枚はねていただいて、5枚目、「協働のまちづくり基本条例の推進」、こちらは、条例施行から5年ごとに行う見直しとなるため、今年度から動き出すものとなります。 以上のように、準備中の事業も「実施中」または「完了」に向けて今年度の取組みを進めていくところですので、市としては、戦略に基づく事業につきまして、留まることなく、前に進んでいると判断しております。 次に資料3-1、3-2にあります地方創生関係交付金事業です。3-1は主にソフト事業を対象とした地方創生推進交付金、3-2は、主にハード整備を対象とした地方創生拠点整備交付金となっています。 一部につきましては、国からの交付期間は既に完了しておりますが、交付金を受けるにあたって策定した地域再生計画の計画期間が残っているため、こちらに掲載しております。 「はじめにお読みください」の7ページ、8ページをご覧ください。事業評価としましては、7ページの事務局評価にありますとおり、K P I の達成状況によって機械的に評価を行っています。結果概要につきましては、8ページにありますとおり、地方創生に非常に効果的であった事業が2事業、相当程度効果があつた事業が2事業という結果となりました。 なお、結果概要の表の下からは、主な取組とK P I のへの影響について、K P I 達成に寄与している取組みの一部を取り上げて紹介しています。いずれの事業も地方創生に効果があるとともに、地方版総合戦略の実現に有効であったと、事務局としては考えております。 資料3-1、3-2をご覧ください。表の右から2つ目の列、今後の方針について記載をしております。事務局としましては、表に記載している内容のとおり取り組んでいく予定ではありますが、この地方創生関係交付金事業をより効果的に実施していくために必要な取組み等について、ご感想やご意見などございましたら、参考とさせていただきたいと考えております。 議題（1）に関する説明は以上となります。
鈴木会長	はい。どうもありがとうございました。 大変量が多いので、また皆様の机もいろんな資料が渋滞して大変じゃないかと思えますけど、ご自身に関心をお持ちのところで結構ですのでこれからご意見いただきたいと思えます。 今ざっと説明をいただきましたけども、いかがでしょうか。まず、そうですね。（1）のところは、この5次総の総合計画の進捗ですから、まずは総合計画の進捗の方を中心としてご意見いただきましょうか。 はい。皆様方どうでしょうか。資料をお読みいただいた範囲で結構です。またご意見があれば、ぜひお願いしたいと思います。 では、増田委員お願いします。
増田委員	未達成になってしまった主な理由ということで3つ書かれているのですが、逆に達成できた方を非常に評価すべきところだと思います。その達成、特にコロナで外的要因がある中で、達成できたところの大きな理由等があれば教えていただきたいです。
事務局（古田）	ありがとうございます。 今達成できたものもあるということでお褒めをいただいたところではございま

	すが、なかなか数としては割と少なく、私どもも大変真摯に受け止め反省しなければならないなと思っているところです。 理由といたします3点あげさせていただいて、コロナというところを事務局の方から説明をさせていただいたのですが、必ず市の施策すべてがコロナに影響するものばかりではないということかなと。 もちろん、その中でも各部局が努力をして達成したのもあると思いますが、1個1個分析を今ここでご説明できる状態ではないですが、コロナに影響しない事業も市政としてはあり、逆にそんなの関係なく進めていかなければならないものを実践したというようなところが、この達成できた項目かなと考えております。
鈴木会長	増田委員、よろしいでしょうか。
増田委員	はい。
鈴木会長	それでは、ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。 では鈴木温委員、お願いします。
鈴木温委員	最初のまちづくり達成指標ということで特に2ページ目のところの指標、まちづくりの繋がりや、愛着を感じているというところが達成できてないというお話がございました。今まで、去年も皆様といろいろ議論している中でやはり年々その地域の繋がりとか、愛着というのが、以前に比べて希薄になっているのではないかという話があってこの結果はそれをある意味証明してしまっているというふうに受けとめています。いろいろ原因を考えていたのですが、その個別の目標指標一覧を見るとやはり関連するものとしては、宣言3あたりが関係するのかなと思ってまして、宣言3はやはり未達成が非常に多いですね。 一応マイナスとなっているところもあって、これコロナ禍の影響というのも無視できないと思うのですが、やはりもう少し根本的な、本質的な問題があるのかなというふうに思っています。 私の個人的な見解といいますか、感想に近いと思うのですが、この犬山に限らず、社会全体が大分変わってきていると。SNSとか、実際に会ってのコミュニケーションではなくて、スマホなどネット上のコミュニケーションが非常に増えており、必ずしも地域との繋がりを持たなくてもいろんな繋がりを作っているという人が多くなっていること。或いは非常に忙しくなっていて女性も外で働く人が多くなっているということで、その中で子育てをしている人は、やはり仕事があってさらに子供の習い事なんかも非常に増えていて非常に忙しい。その中でなかなか自治会活動とか、地域の活動に参加するというのは非常に難しいという世帯が非常に多くなっているのではないかと。 しかし一方で、そういった地域の団体などは以前の旧来通りの仕事はずっとある意味惰性で続いてきていて、以前とは全然社会が変わっているのに、活動の中身は変わらないので非常に逆に負担になっていて、その中で必要性も随分変わってきているのに、その中で変わらないと本当に必要かどうか、逆にそういうものが必要悪になっているところもあるのではないかと、やほりそういったその辺りうちの地域もですけど必要なものもあるのではないかと、なので必ずしも未達成だから、悪いというようには思わないところもあって、むしろこれを変えてくきっかけにしたらいいのかなというふうにも思っています。 どのように変えてくかということは非常に難しいので、1個1個、個別に見ないと一律にはいかないと思います。以前と同じようにこれをやってきたのだから同じようにやりなさいということではないのではない。

	むしろPTAもそうなのですが、頑張っている人の中で、逆に押し付けみたいになって仲が悪くなってしまうというケースもあって、逆にもう自分はやめちゃうという選択も結構増えてくると思う。やはりこれからのコミュニケーションの作り方は、押し付けでも、量的なものでもなくて、やりたい人がどんどん率先してやっていくような形、自発的な形が、基本になってくるのではないかと思います。少しまとまらない話ですが、感想ということで。よろしくお願いします。
鈴木会長	すごく響いてきました。皆様もそうだと思います。 では、部長、よろしくお願いします。
事務局（井出）	4月から部長になりました。今後ともよろしくお願いします。 鈴木温委員、ご指摘ありがとうございます。 市としても愛着の部分、或いは地域の活動の部分が弱くなっているところでは重く受け止めていまして、それに対応して最近市の方がやっているところを少し紹介させてください。 一つは、市民活動を助成するということは、以前からやっていたのですが、以前鈴木会長のお力添えで、協働のまちづくり基本条例を作り、それを踏まえて、令和4年度に市民活動だけではなく地域の活動、町内会活動であったり、コミュニティ活動であったり、そういったものを支援するために犬山市公益的活動の支援及び市民参加に関する条例を制定して、地域の活動に対しても行政が関わって支援していくというような形の基盤を作りました。 また、地域の活動でいろいろ負担になっているものもあるのではないかとというようなご指摘があって、それは町会長さんの集まりの中の方でも市へ指摘があって、広報を配るのが、高齢の町内会には負担だと、月2回非常に重い分量を配るのが負担なので何とかならないかというような形でずっと言われていたのですが、今年度から市の方もいろいろ努力しまして、直接市民の方に広報をお配りするという仕組みを作りました。 これは町会長さん或いは班長さんの負担を減らすということもかなり大きな意味もあるのですが、もう一つは、町内会に入っていない人にも行政情報を伝えなきゃいけないなというところがあったので、今は2割の方が町内会に入っていないところでそういう方にも行政情報をお伝えする。 それから今町内活動をやっていらっしゃる方の負担を減らして、福祉であるとか防災であるとかそういった形での町内会の担う役割というのはかなりあるので、そちらに注力していただきたいということで、広報を直接配るということを始めました。それと実験的ななのですが、デジタル町内会と言いまして、ネット上で町内会活動ができるような仕組みがあり、それをやりたいという町内会があれば市としても紹介してそれに対して補助を出すというようなこともやって、実験的なことですが始めました。地域の活動というのは大事ですので、行政的なことで負担を少しでも減らして、本質的なところで皆様に頑張っていただきたいということで活動を始めているところです。以上報告です。
鈴木温委員	今おっしゃられたのはこの資料3-1のICT町内会導入事業というところですか。
事務局（井出）	はい、そうです。
鈴木温委員	これ拝見して、非常に良い取り組みだと思っています。
鈴木会長	どうもありがとうございます。ほかのご意見、どうでしょうか。

	では、岡村委員、お願いします。
岡村委員	私は健康づくりの推進というところが結構気にはなっていて、以前からがん健診であるとか、それから特定健診などもなかなかこういう啓発しても受ける方が少ないなというところで、その結果が一応見えているなということと、物によっては高齢者のインフルエンザの予防というところで、結構話題になったことでして、未達成になっていますけどもAなので目標に近いところというのは自分の中ではそういうことだと理解をしております。あと妊婦さんたちですけど、この前も別の委員会、そういった審議会がありまして、今はやはりネット上での様々な情報が溢れていて、コロナということになって家族と病院なんかで、面会できない状態で非常に不安な中でお産をしているのだということ、それから、産んだ後も情報が溢れていてどれを選択していいのかわからないというような、そういったところもありますから、単にこういう達成・未達成ということではなくって、そういったことの背景にあるのではないかなと思います。今後のそういった計画をする場合には、そういったところも配慮して計画に入れていく必要があるかなと思います。以上です。
鈴木会長	貴重なご意見ですね。ありがとうございます。 ほか、いかがでしょうか。 はい、丹羽委員、お願いします。
丹羽委員	はい、すいません。ご説明ありがとうございます。 市役所の方と我々民間企業もこうゆうことをやっているのですが、まず今日この場の討議がなんですか、というのはあまり自分自身よくわからなくて。できた、できない、は別問題として、結果でしかないわけです。普通に考えると、この第5次があって第6次を作りました。それで5次から6次はいろんな先生のお話もあって、やる内容も変わってくるだろうからいろんな話が出てくるということもわかるのですけれども。 結局、市がまちづくりをやっていて、第5次でこういった項目の展開の中で、できなかったことを本来は選択しながら第6次の計画に入れていくというアクションの仕方をしないと、やっている意味があまりなくて。そういうことをローリングするってことが非常に大事で、こういった中長期でさえ本当に、今回も6次は4年間ぐらいの計画で作ったわけですね。ローリングすることが大事で、それを選択しながら第6次を練っていくってことが非常に大事で。 今日はもう終わってしまった結果をご説明いただいて、どうにもならないという話もありますよね。厳しいこと言えますよ。 ですから、作る策定のプロセスをもう一度見直して、次の第7次になるかわかりませんが、そういうところに生かすことが大事ですね。まずはこういった計画を練ることに対してね。 どういうプロセスを踏むと、より高いレベルのものができ上がってくるかというプロセスをちゃんと踏むということがまず大事かなと思っていて。5次と6次で切れるものもあっていいと思いますけれど、ぜひやらなきゃいけないものはやっていく。やらなくてもいいものは切っていく。それはいわゆる経済動向とか犬山市の状況を含めて見極めをやって、それを6次にどうしても入れなきゃいけないものは選択して6次の中に入れていくという作り方の方が、より良いまちづくりになっていくということと、やはりこういった計画を立てるということは結果が出るわけで、結果の善し悪しはよく反省をし、次に生かすという対策を練る

	ということをやらないと。 おそらく、前の方も6次を我々が作ったように時間をかけてやったと思う。それが無駄になってしまうので、なるべく継続するものは継続しながら、吟味をしてやってくることが大事なと思って。また今日この説明をいただいたのですけど。厳しいことを言うと、結果でしかないですね。1回中間報告の中でも言いましたけど、民間とは大きく違いますねって話をさせてもらったけど、結果でしかないから。それだと何かもったいないなという、せっかく取り組んでやられている中ではもったいないなという気がしている。 追加で少し厳しいこと言うと、これは5次でこれ未達成のものはどうなっていくのかなということが気になる。このままで終わって、はい、6次に行きますというもののなか、そうじゃないというもののなか。確かに指標によってはマイナス評価のものもありますけど、それは評価の仕方の問題だけです。でもあまりにも未達成が多いので、そこはどうされるのかなと、はっきりした方がよろしいのではないですかと、いうふうには個人的には思っています。 いろいろ厳しいこと言いますが、そういう作り方がやはり非常に、やっている方々もいいのではないかと私は思う。なるべくこういった継続する、しない、というところから1回挟んで練るということをやった方が、非常に僕は充実したまちづくりになると思います。今回の6次もそういうことも含めてやられたと思うのですが、そういう作り方がいいのではないかって、先に向けてはね。 個人的にはそう感じています。以上です。
鈴木会長	それでは事務局、説明をお願いします。
事務局（古田）	ありがとうございます。 今ご指摘いただいた点については本当にその通りだなという内容かと思えます。確かに行政においては計画づくりにおいて、前の現行計画を踏まえて次の計画を作るというのは大原則にはなっていますので、その考え方については全くおっしゃる通りだなと思っております。ただ、この時期の結果をどのように6次に活かしているの、ということについては、確かに結果報告になってしまっているの、この検証がそのまま第6次の計画に生かされているわけではございません。ご存知のとおり第6次の計画では指標が4分の1程度になっていますので、2つ目のご質問の、未達成をどうするのか、というところにも繋がってくるのですけれども。さきほどの増田委員の質疑にもありますとおり、ここに書いてあるもの、指標という形で目標を取っておりますけれども、どの事業も行政としても推し進めていかなければならないものばかりでございますので、本来であれば未達成なものはより重点的にということかもしれませんけども、この結果を踏まえて担当課にもフィードバックをしますのでこれを推し進める形で引き続き進めていくというところでございます。 ただ、そんな中、6次総について、継続するものがあれば切るものの中にはあってもいいのかなという内容のご発言いただきましたけれども、今回4分の1ぐらいに指標を絞ったものについては、今後8年間において何ともぜひ力強く進めていきたいという目標を位置付けたものでございます。ですので、未達成のものは当然進めますが、今のこの時点からについては新たに掲げた1/4の40を超える指標になっておりますけどこれを強く推し進める。その形を新たに作っていきなと。そのためには、指標によってはその8年間の途中で見直しを迫られることもあるかもしれませんし、8年間の間に特にまた予算ですとか、組織的にもそ

	ここに注力をしなければいけないというような工夫が伴うものもあるかもしれませんが、まずは今回この5次総の結果を踏まえて、6次総40を超える目標を達成することを今後考えていくという形で、今回この報告をさせていただいているということです。
事務局（井出）	ご指摘ありがとうございます。 昨年の検証で丹羽委員から同じことを言われ、我々も非常にこれも重く受け止め、当時の、数字を使う問題を第6次の計画に改善という形で反映させていただいているつもりです。どのようにこれをローリングしていくのかという話であったり、指標が多すぎるだろうという話であったり、どういう形で駄目なやつを良くしていくかというようなところ。今回6次総ができたにもかかわらず、5次総の最後これは行政的には閉めという形で結果報告という形でさせていただきましたが、丹羽委員からいただいたご指摘については6次総の方でしっかり引き継いでやっていこうというふうに我々思っていますので、またご指導ください。
丹羽委員	もう1点いいですか。 私が言いたいのは、結局いいものを作っても、やろうと思ったらそのプロセスをはっきりしないと、ということをお願いだけです。今回も6次を作りました。今ここにお手元の方に皆様資料持ってみえると思いますけど、また総合戦略関連事業推進状況一覧表がありますよね。これまた別ですよ。期間も別ですね。やっていることはわかるけど、関係性がよくわからないし、期間も違うという内容もありますよねと。 大事なことは、5W1Hですよ。誰がいつまでにどうやっていくのということがしっかりできていけば、そこを全体でフォローしていく場を設ければ、私はそれなりに進んでいくと思いますが、それが例えば人も変われば組織も変わるといことがあるから。結局状況が、変化があるのですね、長期間だから。そこをどうやっていくかという話を決めていかないと、次の6次を作っても、いいものを作ってもその通りになっていかないといことがあるのではないかと考えている。ぜひ市役所としても、私厳しいこと言っているかもしれないけれど、前向きに考えてもらって、どの時期にこんなことをどうやっていくかという全体像のまちづくりをやらないと。良くないのではないかなと。今回やらせてもらって思ったので。そこをしっかりとやって欲しいなと。やる時期というものはあって、やはり旬のうちにやるというのが一番大事だし、そこに対してちゃんと全体としてフォローしている部門がちゃんという、というようでない、なかなか人は、弱いのでその通りになっていかないと私は思います。それも6次で同じことを繰り返さないようにやっていただきたい。それだけです。 厳しいことばかり言って申しわけございませんが、よろしくお願いします。
事務局（井出）	ありがとうございます。 この場でご意見いただいて、役所全庁的な調整はまさにこの企画広報セクションになると思いますので、我々の方で全庁調整しながら事業推進をしていきたいと思っております。ご指摘ありがとうございます。
鈴木会長	ありがとうございました。それではどうでしょうか。他の委員さん。よろしいですか。 全然厳しい意見ではなくて、ごくごく本当に真正面から直球なご意見で、とても好感が持てる話であったかなと私は聞いていて思いました。 その前提としては、先ほど鈴木温委員や岡村委員、それから増田委員からいろ

	いろいろ指摘いただいたことも通じていくところだと思いました。先ほど事務局の方からも、これはこうやって公表して未達成の状況が非常に多いという結果についてはこれを担当課の方に還元して、そして未達成であったことの意味を検証してもらおうと同時にその検証の中で、ただ単なる量的な未達成度ではなくて、先ほど鈴木温委員もおっしゃったようにここに出てきている指標と市民生活の落差、違いというものも起きている。そのあたりをしっかりと見定めて、事業の進め方をやはり変えていくのであれば変えるという方向性を示してそして取り組んでいかなきゃいけない。そのことをまた市民の皆様にお伝えをして、市民が求めているニーズと行政の方がサービスとして提供するシーズが、マッチするように実は考えて取り組んでいってそれがどうであるかという検証をしていただく、まさにローリングをしていただかなければならないということだと思えます。ですから、ここで未達成だったというところは是非とも担当課の方でどう受けとめたのか、そしてどう市民に届けていくべく6次総で生かしていくのかというあたりはまた今後、調整をされる事務局の方でぜひまとめていただいておりますことが必要かなというふうには思います。 非常に幅広い分野を担当しているので、個々の未達成がどうしたという検証の意義というのはすごくあるような気がしますし、今後この事業を検証してチェックしていく。この委員会としてもとても重要な情報だと思いますのでそこはぜひ、今委員の皆様からご指摘された内容を踏まえ検証していくべく、働きかけをしていただきたいと思います。よろしくお願いします。 それでは続きまして、(2)の第2期いいね！いぬやま総合戦略の改訂について、こちらの方について事務局から委員の皆様方に説明をお願いします。
事務局（倉知）	こちらもご報告をさせていただきます。第6次総合計画策定に合わせて、新たな人口ビジョンを審議会にてご確認をいただきながら策定しました。それに伴い、現行の総合戦略の人口目標等、関連する部分の更新が必要となりました。 資料4は、その更新箇所を新旧対照表にてお示しするものです。なお、人口ビジョンにつきましては本日の資料としておりませんが、みなさまのお手元に配付しました第6次総合計画の本冊126ページより確認ができますので、適宜ご参照ください。更新箇所一つ一つのご説明は割愛しますが、更新の内容としては、大きく2つあります。 1つ目は、新たな人口ビジョンでは、出生率の向上と移動率の改善により2060年の目標人口を60,000人としたのでそれを反映させる。という点です。新旧対象表1ページ①②は目標人口を更新しています。更新前の戦略では、出生率の向上と移動率の改善に加え、「交流人口（滞在人口）の拡大」も記載ありましたが、新たな人口ビジョンには関係人口の言及がありませんので、それに合わせて削除しています。 3ページの②も、目標人口60,000人に更新して、グラフも新しいものにしています。そのほか、必要な箇所の更新をしています。 2つ目は、合計特殊出生率について、厚生労働省の「人口動態統計特殊報告」の数値を採用して目標設定を見直した点です。具体的にお示ししますと、6次総本冊の133ページ図11に合計特殊出生率の推移が、そして154ページの表4に今後の設定数値がそれぞれ確認できます。 新旧対照表の4ページ、左側の②ですが、合計特殊出生率について、2015年の数値を1.36、2040年の目標値を人口ビジョンと合わせて1.55と記載しました。

	本冊 133 ページの図 11 を見ていただくと、厚労省の人口動態統計特殊報告では、毎年ではなく、5 年間ににおける出生率を出していることがわかります。年毎の数値を把握することができないため、そのまま 1.36 を採用しています。 なお、合計特殊出生率の数値を変えていない箇所があります。新旧対照表 6 ページです。ここは、第 1 期総合戦略の達成常用に関する内容となりますので、新たな人口ビジョンを反映させていません。合計特殊出生率の数値が異なることを、注意書きで示しています。 最後に、7 ページになります。ここは、合計特殊出生率の K P I を更新します。新たな人口ビジョンでは、2025 年、令和 7 年の合計特殊出生率の目標を 1.40 としています。戦略の計画期間は令和 6 年度で終了となりますが、厚労省の人口動態統計特殊報告の数値を採用しているため、年次の表記方法も、同報告に合わせた形で記載しています。平成 25～29 年の数値を 1.36、令和 5 年～令和 9 年の数値を 1.40 にする、という更新になります。説明は以上となります。
鈴木会長	地方版総合戦略に関わる改訂の内容について説明いただきました。 非常にわかりやすい説明だったと思いますのでこの範囲に限らず、皆様にもし質問がありましたら出していただいて結構です。今の説明の内容に関わったところで結構ですが、どうでしょうか。 ご意見としてぜひお願いしたいと思います。 奥村委員、お願いします。
奥村委員	今（2）の議題ということですね。 新旧対照表で、いいね！犬山総合戦略、こちらの方が第 6 次総合計画を作ったことによってこの部分が変更になるというご説明だったと思います。 総合戦略の方は令和 2 年から令和 6 年ということで、どこが変更になったかというよりも、先ほどの議題で言えばよかったかもわかりませんが、いただいております資料 2 にある、総合戦略関連事業進捗状況一覧表というものがあります。 私どもが総合計画の審議会委員になったとき当初のあたりにいただいた資料に一覧表がございまして、その時は令和 2 年度以降に新たに取り組む内容というものと、今回配っていただきました、令和 4 年度以降に新たに取り組む内容の事項というものと比較対照しながら見させていただきました。 頑張ってらっしゃるなと申し上げたいと思います。 資料の 2 の 4 枚目です。このオレンジ色みたいところで、がんばる企業と新たな起業を応援します。チャレンジする重点事業の 4 つの段階のところ、特に上から二つのところ。令和 2 年のところを見ますと、後継者バンク創設というのが準備中だったものが完了になっています。その下の、企業のマーケティング戦略の支援強化というものも、これは準備中であつたものが完了になっています。 次に新たな特産品の開発支援というのが、実施中であつたものが完了になっております。新たに開発商品化した事業者に対する販売促進活動などへの助成、これも準備中から完了になっています。この辺りを見させていただきますと、2 年度評価に比べますと随分と頑張ってやってらっしゃるなというそんな印象を持ちました。 その下のところで、産業集積誘導エリアへの企業誘致からその下が 4 項目までですね。実施中ではありますが、この令和 4 年度以降に新たに取り組んだ或いは

	取り組む内容という部分を読ませていただきますと、例えば産業集積誘導エリアの企業誘致のところでは、不動産事業者と意見交換を行い情報の収集や提供を行い、進出を促し新たな二社の立地に至ると書かれております。こういう実績が出てきているからこの辺りもとても頑張ってもらっているのではないかなという印象を持った次第です。これは私がいいなと思ったことです。 一方、例えばこの参考資料1、前のお話のものです、参考資料1の49番に魅力ある商業地の整備の中で市内の商店、店舗で買い物する人の割合が結果としては達成になっており中を見ますと、2016年度が66%。計画終了時は21年度の75.8%ということで、21年度はつまり6次総の計画をする時に市民の皆様からアンケートを行って、その結果のデータだと思えます。そのアンケートの内容を見ますと、これはもうその時にも指摘をさせていただいたのですが、市内で買い物する人は、年に1回でも買った方がカウントになってしまう。これ達成なのかという気持ちがございました。2021年度ですので、コロナ禍であるならば遠くに行って買い物するよりなるべく近場でという作用が働いているのかなと思ったりもしました。これは私の勝手な思いです。例えば、ここの達成もあるけれども本当に達成なのかと、未達成といってもこれは少ししいかな、というのが、ここにまとめてありますこの別紙、初めにお読みくださいの5ページにありますところの未達成となってしまった主な理由の中に、①②③と書いてあるところかなと読みさせていただきました。 そういう反省は、反省を踏まえて6次総の計画に盛り込んでいっているのではないかなというそんな思いもさせてもらっていますし、この総合戦略の中では、令和4年度以降だから、もう今始まって5年度、6年度に向けてもうすでにスタートしていっている部分も感じ取られましてね。頑張っていっているなと思いました。まとまりのない感想となってしまいました。すみません。
鈴木会長	遡ってご指摘いただいた部分もありましたので本当ありがとうございます。事務局の方どうですか。
事務局（井出）	古い資料も分析いただきましてありがとうございます。 まさに今言っていたとおり、総合戦略の方も計画期間の方がもうすぐきます。今回人口ビジョンの内容を反映させる部分について、修正を報告させていただいたところです。我々も今準備を始めていますし、後程お話あるかもしれませんが来年度は本格的にこれを改訂するという作業ができますので、委員がおっしゃったことはまさにそうだなと思います。 よく見ていただいてありがとうございます。
奥村委員	もう一点だけ。 私、資料が立派だなと思ったところです。病児保育と病後児保育であります。 こちらの方の総合戦略の方にも、準備中と書いてありますけれども、令和6年度以降は病児保育事業を委託、実施予定と書いてありまして、本当に女性の方が働くとき大事なことで、病気になった子どもさんを見ていただけたところがある。 それから、少しよくなったから現在は病後児保育だと思いますけれどもさらに進んで、病児保育をやってもらっている。こういうことをどんどんやっていることがやはり子育ての環境もよくなると思いますし、それが犬山市に住みたいと思うようなことになるのではないかなと思って、どんどん進めていただきたいと思った次第です。以上です。

事務局（井出）	ありがとうございます。病児保育を市としてもやっていきたいと思っていますし、まさに今おっしゃったように、シティプロモーションの対象になると思うので実施とともにこれをPRして犬山住みやすいまち、女性も男性も住みやすいまちというような形でやりたいと思います。 ありがとうございます。
水内委員	少し視点がずれるかもしれませんが、この人口ビジョンもそうですし、先ほどからやはり指標のこと、達成しないとか未達成の話が多くてすごくもやもやするなと思いつつ、やはり行政独自の環境というものがあるということを改めて感じています。おそらく行政は全方位だということだと思います。すべての年齢、すべての状況にある人達が、この犬山市ぐらいの規模になってくるといっちゃう。色んな立場の方がいらっちゃって、そのターゲットを絞って、そこに対して重点的に事業展開ができると話は違うのですけれど。ターゲットを絞るわけにいかないし、非効率であってもやらないといけない。それがその行政であることの、独特の一つの特徴だと思います。その中で目標を立ててやっていくときに、やはり切り捨てられないので、それをどうしたらいいかということをおそらく今後の6次の中間評価とか、見直しに関わってくると思うのですけれども、この目標をずらすしかなかったり。目標の数値にそう縛られないとか。 それから、一つはやはりセクションだけではなかなか難しいと思うので、6次の計画の時にいろいろな話が出ていたと思いますが、やはり横展開、横でこう繋がっていきながらアイデアを探して、こうずらしていく。そのためにその計画を立てただけでもそれに対してうまくいかないとやはり数値、目標が違うかもしれないってことは担当の人しかわからないのではないかと思います。実際関係するところと話をしている人たちがないとわからないと思います。そこに対して、アプローチしてずらすということしかおそらくないのだろうなと思ったのですが。 どちらかに力を入れると、無限にその予算があって無限に何かあればいいんですけど。そう思うと行政ならではの、やり方というのが、社会が変わってきている中でやはりあるだろうな。目標を定めつつも、それに対していかに柔軟にアイデアを持ってずらしていくかということが今後、おそらく必要だろうなと。なかなか言葉にならないですけども、そんなことを今、考えています。
鈴木会長	はい、ありがとうございました。 総合計画と総合戦略との関係というところで水内先生が指摘していただいた部分だと思います。 はい、それではお願いします。
間中委員	いろいろご意見を聞かせていただいてすごく勉強になっています。 市民の声として今日こういう会に参加させていただいて、ここに来る前に第5次の結果を見て正直言ってすごくいろいろ思うことはあるのですが、今日それで何を言えればいいのかなということがすごくわからないままここに来た状態で、今日皆様の意見を聞いて何となくこういうことなのかなと思ったので市民が参加する立場として最初にこういうことって具体的にもしわかっていたら見る視点が違ったかなと思います。今までは6次を作り上げていくという考えで来ていたけど今日は違うということは何となくわかったかなと思います。 あと細かいデータ、広報の話が出たと思いますが、私も広報で気になっていることがあって広報誌を読んでいる市民の割合が1ページ。参考資料1の1ページの23番、これマイナスで、でもその下に公式ホームページのアクセス数が結構伸び

	ているなと思うので、こういうふうに見ると、広報は私もLINEでチェックして、広報が更新されたなと思ってラインから見る人が多いです。そういうふうな見方をしていたら配らなくて済むなということも思うので、何か市に直接というよりは希望を聞いてホームページとかネットを活用するというような考え方もいいのかなと思うと、こういうデータもすごく有益かなとも思いました。 あと、今ケアマネをやっているので気になるところが。介護士ここのデータの、3ページの介護保険サービスの提供、74番のところで3180%の達成が。達成されているといっても、もうこのパーセンテージは目標がどうだったのかわからないですけども、これは介護保険の例えば居宅の事業所を増やすという意味だったのかなとか思ったりもします。介護保健サービス利用者数って何もしなくても伸びていくのではないかなと思うので、そういうところで達成されたものも、こういうデータを使って、また今度更新していくことが大事かなとは思いました。以上です。
事務局（古田）	ありがとうございました。 1点目の広報誌の話で、広報誌を読んでいる市民の割合とアクセス件数、この結果は、良い傾向分析になるかなというご指摘だと思いますので先ほど部長の方から、今年度から全戸配布を始めたということで2021年時点では、全戸配布しなかったんですね。もしかしたら市民の割合の方の割合としては、町内会に入っていない方には逆に広報誌が届かなくなっている。先ほど鈴木温先生がおっしゃったように、地域の関わり合い方も皆様いろいろになってきて町内会に入らない方も増えているというような形で、この広報誌の市民の割合は1個とってもいろんな見方でこの分析ができる資料かなって思っています。ホームページのアクセスも増えていきますけど今ご紹介いただいたラインというのも市が使っていますし、その他ツイッターですとかYouTubeですとかいろいろな媒体を使って市政情報をPRしています。こういったものをそれぞれの良さとか、逆にまだ適さないということがいろいろあるので今回の5次総の結果として公表させていただいておりますが引き続き、傾向をきちんと掴みながら、一番適した情報発信、まず私どもは何かして市政の情報を皆様にお伝えしたいということが大前提ですので、どの方法が一番いいのか今答え出ていませんけども、引き続き検討してまいりたいと思っています。 2点目の介護保険サービス利用者数の達成。これも自然にしていれば増えてきますよねというご指摘だと思います。この指標に限らず、先ほど来この達成率という中でそもそも目標設定の設定する数値、考え方が時代、計画期間中にそぐわなくなってくるというものもあるかと思います。そういったものを先ほどローリングという言葉でご指摘ご意見賜っていますけどもそれをきちんと見直しをして、やったかやらないか、できたかできていないか、だけでなく本当にこの指標が計画最終目標を達成するように適しているかということも踏まえてこの6次総は進めて参りたいなと思っております。以上です。
鈴木会長	はい。よろしいですか。他いかがでしょうか。よろしいですか。 ご意見いろいろいただきましてどうもありがとうございました。 それでは本日の主な議事は以上で、その他として何かございますか。事務局のほう。

（5）その他

事務局（倉知）	その他のご説明をさせていただきたいと思います。 6次総 総合計画書及び概要版について報告させていただきたいと思います。先ほど議題のご説明の際にご参照いただきました、審議会の委員の皆様のご協力のもと、無事に第6次犬山市総合計画が策定され、計画書の冊子や概要版の印刷が完了しました。本日お配りしました計画書の冊子と概要版は皆様にお渡しするものですので、ぜひお持ち帰りください。 表紙のデザインにつきましては、犬山市は地域ごとに魅力や特徴がある、ということを見る人に感じてもらえるような、また、背景は白を基調とするなどして、明るい印象をもってもらえるようなものになっていると思います。 冊子や概要版の中身のデザインにつきましては、どの年代の方でも文字が見やすいようにユニバーサルデザインを使用しています。 また、色覚多様性者の方も見分けがつきやすいように、カラーユニバーサルデザインに配慮しました。 そして、水内副会長にもご協力いただき、何度かご助言をいただきながら、中身のデザイン作業を進めさせていただくことができました。水内副会長におかれましては、快くご相談に応じていただき、誠にありがとうございました。 その他2点目です。委嘱機関の満了についてです。 皆様の審議会委員の委嘱期間は本日まで、となります。令和3年度と令和4年度の間、審議会で積極的なご議論をいただき、また、会の運営にあたりご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。なお、委嘱期間はこれで満了となりますが、今回の審議会の議事録を、今後事務局から送付させていただく予定ですので、その旨ご承知おきください。 その他は以上となります。
鈴木会長	もう、他によろしいですか。 水内先生、何か出来栄えについて。
水内副会長	十分な出来で分かりやすく、かつ犬山らしいと思います。
鈴木会長	今、水内先生がおっしゃった犬山らしいものができたということで。これ、皆様もおそらく共通する意見としては、やはりこれからのやはり犬山を担っていく高校生とか中学生とかという世代にもこの内容をぜひ知ってもらいながら、参加協働の実施意欲をかき立ててもらいたいなと思っているのではないかと思います。今後この立派な概要版にしても、内容をどう若い世代に伝えていく試みをするのか。或いは、若い世代だけではなくて実際に興味を持っていただきたい年齢層の方に届ける。この辺の市民への届け方というところについては何かお考えになっていますか。
事務局（井出）	会長おっしゃるような若い方に伝えたいなと思っています。当面、大学、名古屋経済大学であるとか、南高校改め犬山総合高校の方で我々協定を結んで、お話する機会等ありますのでそういったところで、学生さんに対してPRしていきたいなと思っています。
鈴木会長	私も地元で学校評議委員をやっているのですが、とても学校の教員にこれを活用してということは負担が大きい。とてもとても難しい状況なのですが。 一方で現場の教員の負担を軽減する意味でも、市の方がこの犬山で作ったものを例えば中学校の各学年で紹介するような、或いは全校的な形で紹介するようなイベントを持ちながら、子供たちに考えてもらう、或いは参加を促していくというような機会を作っていくことが大事じゃないかなと思っています。今回水内先

	生が随分デザインのところでは工夫を凝らしていただいて、犬山らしいものが出てきているというふうに言っていただきました。ぜひ次の犬山の世代に届けていくこと、これを大事にしたほうがいいと思います。協定を結んでいるところは率先して、それ以外の子供たちのもとにも届けて欲しいなという気持ちは強くありますが、皆様どうでしょうか。ぜひ、これからまた検討いただいて、実践していただいと思っています。 委員の皆様が、ぜひ私が協力していくよとか、学校に行ってもいいよということがあったら、またそれはそれでぜひ市の方に協力していただければなというふうに思いました。よろしくお願いいたします。 委員の皆様の方から何かこの今日の内容について、ご意見とかありますでしょうか。 まず田村さん、それから鈴木さん。お願いいたします。
田村委員	何か最後に一言挨拶とかあるのかわからなかったのここですけど改めて冊子を見るといい意味で表紙の情報量が多いとか、改めて自分結構面白い場所に住んでいると思って。知らない人が見たら何だろうというようなものがいろいろあると思って、本当個性的な場所に住んでいるのかなって生まれてから8割くらいの人生ここで住んでいるので当たり前前に思っていたけど、結構自分で面白い場所に住んでいるのと改めてこの期間中に考えることができたのと、誰かにとって便利だなんてなったり、いいなって、達成できたってなったものが誰かにとっては少し難しいことだったり、またもちろん市役所の人もこれをこうしてくださいって言うてもわかりましたってすぐできるものではないだろうなとも本当にいろいろ思っ。いろんなことって、社会ってグラデーションでできているなってことがすごく改めて感じたのと同時に、改めて活動中に犬山のいいところ、また問題点をすごく考えることができたので、まずは自分の周りの地元のお友達とか今名古屋とかに住んでいる地元の友達とかちょうど今年私30になる年で10年ぶりということで犬中の同級生で同窓会やろうよって、成人式から10年ぶりのやろうよってことを考えていて、まだ何も決まっていなくて年末ぐらいやれたらいいねということをして、その時みんなで今どう暮らしているとか犬山の思い出話とかできたらいいなってことを最近考えていて、こうやっていろんな世代のいろんな職業の方と会って1年以上かけて何かやるということもあまり今までなかったことだったので、それもすごく楽しかったです。食事会とか本当もっとやれたらよかったなって。また機会があったらぜひ集まりましょう。ありがとうございました。
鈴木温委員	今日総合計画の冊子を初めて拝見して私は非常に感激いたしました。 というのも今までいろんな総合計画、自分も委員として携わったこともありますし、実際に関わってないですけどいろんな総合計画拝見してきましたけど、私今まで見たらこれ一番見やすいのではないかなと思いました。これは本当に水内副会長はじめ市役所の方、それからコンサルの方は非常に工夫されて作っていただいた。知恵や工夫が入っているなというふうに思いました。 それから非常にいいなと思ったのは、データが非常にわかりやすく示されていて、これを見たら今の犬山のいろんな問題点であるとか、現状というものがひと目で非常にわかりやすく把握できるなというふうに思いました。細かいことを言うと長くなりますけど、例えば1点だけ133ページの自然増減の出生死亡のデータは、冒頭に原市長がおっしゃられていましたけども、このギャップが非常にこ

	の犬山のピークって話をされていたデータが本当に如実に現れていると思いました。こういうデータだけ見ても地元の学校とかいろんな組織の中で見ていただいて。これ見ただけでもこんなに今犬山で生まれる子ども少ないなというのが、非常によくわかる。なので、ぜひやはりこういうデザインもいいですし、いろんなところで活用いただいて、やはり地域の学習理解に使っていただきたいなと思います。ありがとうございました。
鈴木会長	はい、では、森好委員お願いします。
森好委員	ありがとうございました。 皆様のお話を聞きながら私もいろいろ考えておりました。2年間で、私も分野が偏っていましたので、初めて知ることがたくさんありました。そんな中で今回こういう概要版が出てきたところで先ほど会長が言われていたように、せっかくいいものができたので、できただけで終わりではなくてそのあとの啓発活動であったり、広報活動であったり、まず私の周りで、職場や団体、そういうところで見せていきながら告知を広げていきたいなと思いますし、やはり概要版といっても言葉ってやはり難しいじゃないですか。なので、委員の一人一人が、広報マンとして自分の言葉で伝えていけるような、委員としては今日で終わりかもしれないけれども、そういった活動を続けていけたらいいのではないかな。せっかくここに2年、皆様で集った意味がそこにもあるのかなと思いました。 また、今回のことをきっかけに市政のことであるとか、いろいろな自分の携わってない分野に対しても興味を持って知ろうかなと思いました。 すてきな皆様と一緒に2年間関わることができて、とても有意義な時間になりました。ありがとうございました。
目黒委員	2年間ありがとうございました。 私は大学で政策を学んでいるので毎回お話をお聞きしたり、資料を見たりしている中で勉強になる毎回でした。来週から教育実習で犬山市の城東中学校へ行きます。中学3年生に歴史の授業をしますが、ちょうどやる内容が持続可能な社会に向けてというところでちょうどここにSDGsのことが書いてあったのでこれを紹介しながら授業をしようと思いました。本当に2年間ありがとうございました。
鈴木会長	ありがとうございました。まだご発言されてない方どうでしょうか。よろしいですか。やはり鈴木温先生が、この間の審議会で厳しくいろいろデータのことを言っていたおかげだったと思います。データも数字を出すだけだったら、そう難しいことじゃないですけど。それを伝え切る。しかもいろんな見方をする方たちに伝えていく、そういう気持ちを持って表現することはとても重要なことで、数字の裏側まで考えて、そして限られたスペースの中で表現をしていくということを今回も随分追求したかなと思っていました。鈴木温先生の中でいろいろ言われたことが、実は打ち合わせの中でも随分取り上げてあの時言った意味はこういうことじゃないかとか、何時間も時間かけて実は討論したこともありましたので、委員の皆様方がそれぞれの得意なところとか関心の高いところと言われたところは今一つ事例を出しましたけれども、この中に盛り込むのにずいぶんな時間をやはり事務局の方も走り回ってやってきたと思います。 それでも冒頭言われた丹羽さんも言われたような結果になってきている。やはりそのところは所管課の方にまた戻して、データの検証をしていくってことはこれからも続けていっていただきたいと思いました。今皆様からもぜひこれを活用する道をお考えなのでぜひ市事部局としてサポートをお願いしたいと思いま

	す。 本日の議事はこれで整いましたので、事務局の方にお返しをしたいと思います。よろしくお願いします。
事務局（古田）	はい会長ありがとうございました。 皆様からご発言いただきましてこの場で、何をしゃべろうかなという気もしますが、本当に私ども事務局といたしましても2年間ということで一番初めの記録を見ますと、皆様には令和3年は5月から1回目で、今日が12回目、1回目はオンラインの会議だったというような記録を拝見しております。本当に長い間ありがとうございました。そうは言いましても私すいません今日1回目でございます、皆様との思いを語るのもできないものですから最後、井出部長の方に締めをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
事務局（井出）	ありがとうございます。皆様と本当に最初から古田課長とは違って最初からご出席させていただきまして、本当に活発にご意見いただきました。 我々も本当にできる限りどういう形でそれを盛り込むかということは鈴木会長おっしゃっていただいたように工夫したつもりです。これ作っただけで終わりじゃなくて次はこれをどう実現していくのか。その中にはローリングだったりフィードバックしたりということが、必要になってくると思います。今後もこういう形で審議会、また委員の方には新しいメンバーになってくることになると思いますけど進めていきたいと思います。また別の形でご指導いただければと思います。本当に2年間、ありがとうございました。 以上で審議会の方これで閉じさせていただきたいと思います。 6次総と概要版については、お持ちいただいて、よろしくお願いいたします。 5次総については資料ですので置いていってください。 よろしくお願いします。ありがとうございました。